＜統合分野＞

総合実習

目　　的

看護チームの一員として看護を実践する中で、看護管理の必要性と専門職としての役割を理解し、自覚と責任感を養う。

目　　標

１．複数の患者を受け持ち、援助の優先度と時間管理を考慮して、安全・安楽に実践できる。

２．看護チームのチームメンバーおよびリーダーの役割を理解できる。

３．看護管理・病棟管理の実際について理解できる。

４．夜間の療養環境と看護師の役割が理解できる。

５．専門職として倫理的指針をもち行動することができる。

内　　容

１－１　複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性
　１）受け持ち患者の病状変化による治療方針の変更、看護計画の実施と修正
　２）援助実施の優先度の判断
　３）適切な時間での実施
　４）予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整
　５）適時・適切な人への報告
１－２　受け持ち患者の看護計画の実施
　１）計画全体の把握
　２）受け持ち患者に必要な複数のケアの実施・評価
　３）スタッフメンバーの協力を得て実践可能なケアの実施
　４）記録・報告
１－３　流動的環境の中での実践
２－１　その日のリーダーの役割と業務の実際
　１）医師への報告・連絡調整

２）チーム及びスタッフへの連絡調整
３）病棟外の部門との連絡調整
２－２　チームメンバー間の協力・行動調整
２－３　多職種との協働
２－４　継続看護の必要性
３－１　看護管理・病棟管理
１）病院組織における看護管理
（１）看護組織としての機能
（２）看護理念
（３）看護方式
（４）病院提供機能評価
２）病棟管理者の役割と業務の実際
（１）病床管理
（２）部下・看護学生の教育指導
（３）安全管理・物品管理
（４）他部門との連絡調整
（５）看護部組織の中での報告・連絡・調整の実際
（６）職員の配置
（７）勤務時間管理の実際
（８）職員の健康管理
４－１　夜勤体制の業務内容
４－２　夜間のチーム間の協力体制
４－３　夜間の病棟管理体制
４－４　夜間の療養環境
１）患者の就寝準備
２）睡眠中の患者の配慮
４－５　夜間の患者の安全確保の実際
５－１　倫理的視点（看護者の倫理綱領）の意識化

方　　法

１．実習開始前に、学内にてオリエンテーションを受ける。

２．学内実習
ねらい：総合実習のイメージ化を図り、グループワークを通して実習の準備性を高める。
１）多重課題グループワーク

３．病棟実習
１）実習開始前週に、病院組織における看護管理の説明を受ける。
２）実習初日は病棟オリエンテーション（チームリーダー・その日のリーダー・メンバーの役割と業務・各勤務帯の業務）及び患者紹介を受ける。
３）実習中に、病棟管理について説明を受ける。
４）実習期間中、半日程度病棟師長と行動を共にし、看護管理の実際を見学する。
５）実習期間中、その日のリーダーの行動を観察し、リーダーの役割と業務の

実際について考察する。

６）実習期間中は、同じチームに所属する。

７）指導者の指導監督の下、複数受け持ち患者の看護を実践する。

≪対象の目安≫

（１）疾病経過・日常生活自立度に差がある患者

（２）同じチーム内の患者

（３）急変の危険性が高い患者は除く

８）実習指導者の指示・監督の下、１日のスケジュール作成・援助の実施を行う。

９）病棟の看護計画に沿った看護を、優先順位と時間を考えながら実施・評価・修正する。

10）記録は、学生用カルテに記載する。

11）看護チームの一員として、病棟カンファレンスに参画する。

12）申し送り前に、患者の状態をその日のリーダーに報告する。

13）看護場面を通して、安全管理の実際を体験する。

14）夜間実習は、患者は受け持たず指導者に同行し、見学する。

15）夜間のケアは、患者の安全確保のため指導者の監督の下実施する。

16）実習期間中、テーマカンファレンスを実施する。

17）実習終了後は、目的に沿って自己の評価と今後の課題について実習レポート用紙に記載する。

総合実習評価表

実習病棟　　階　　病棟　実習期間　　月　　日～　　月　　日　　番　学生氏名

評定尺度

Ａ：助言を応用し、だいたい１人でできる　　Ｃ：同じことで繰り返し指導を受けてできる

Ｂ：指導を受けながらできる　　Ｄ：同じことで繰り返し、指導を受けてもできない

網掛け部分は以下の評定尺度を使用。

Ａ：述べられる　　Ｂ：だいたい述べられる　　Ｃ：少し述べられる　　Ｄ：述べられない

評価項目	評価内容	評定 A	B	C	D
複数患者の看護	1. 受け持ち患者の全体像を捉えることができる。	6	4	3	0
	2. 行動計画に基づき、受け持ち患者の優先度を考えながら援助を実施できる。	6	4	3	0
	3. 患者の変化に合わせて援助を考え実践できる。	6	4	3	0
	4. 患者の反応を捉え実施した援助の評価ができる。	6	4	2	0
	5. 看護計画の実施・評価・修正ができる。	6	4	3	0
	6. 患者の援助が安全安楽に実施できる。	6	4	2	0
	7. 個々の患者へ実施した援助を倫理的視点や対象の反応をもとに評価できる。	5	4	3	0
チームで協働する看護	8. 患者の状態や実施した援助について、事実を正確に判断・提案を含めて報告できる。	6	4	2	0
	9. 看護実践する上で、看護チームに相談・依頼できる。	6	4	3	0
	10. 看護チームのその日のリーダーの役割と業務の実際が述べられる。	6	4	3	0
	11. 他職種との協働や継続看護の必要性が述べられる。	6	4	3	0
夜間実習	12. 患者の状態と療養環境が述べられる。	3	2	1	0
	13. 患者の状態に応じた安全安楽な援助が述べられる。	3	2	1	0
看護管理	14. 病棟管理者の役割と病棟管理の運営と内容、他部門との調整・連携について実際の場面から述べられる。	5	4	3	0
		合計			/76

《態度》

項目	評価のポイント	A	B	C	D
１．熟考性	・疑問、関心、興味あるものについて、文献を活用して学習できる。 ・日々学んだことや、問題点、疑問が放置されることなく学習され、実習に活かされている。	4	3	2	0
２．積極性	・課題達成、よりよい看護に向けて、積極的に学習し、主体的に行動できる。 ・カンファレンスのテーマに沿って、積極的な発言ができる。 ・自分の意見を述べることができる。 ・技術習得に向けて、評価を受けている。	4	3	2	0
３．責任性	・看護師、他の医療従事者、教員に正確に連絡・報告・相談できる。 ・時間や決まりごとを守ることができる。（記録物の形式、欠席・欠課の対応、提出物など） ・健康管理ができる。 ・援助や実技練習の際は、準備から後片付けまで責任もって行える。	4	3	1	0
４．協調性	・周囲の状況を把握し、自己の役割を考えメンバーとして行動できる。 ・他者の意見を傾聴できる。	4	3	1	0
５．確実性	・行動計画の内容が適切であり、状況に応じて変更し、実習時間を意識しながら行動できる。 ・看護師、他の医療従事者、教員と調整、確認しながら実習できる。	4	3	1	0
６．誠実性	・誰に対しても言葉遣いは丁寧で、尊重した態度で接することができる。 ・看護を誠実に行える。 ・助言・指導を受け入れ、納得したうえで行動できる。	4	3	2	0
				合計	/24

＜評定尺度＞　A：よくできた　　B：できた　　C：少しできた　　D：できなかった

実習指導責任者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

担当教員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

総合点	